

平成30年度アドバイザー派遣事業実施レポート

鳥取市立桜ヶ丘中学校

- 1 研究テーマ 主体性と伝える力の育成
～書くこと話すことの充実と全教科全領域でのアクティブ・ラーニングの実践～
- 2 アドバイザー 産業能率大学 経営学部教授 小林昭文氏
- 3 会場 鳥取市立桜ヶ丘中学校
- 4 実施期日 平成30年 11月 20日 (火)
- 5 実施内容

- ①研究協議
- ②授業参観 (公開授業)
- ③授業参観 (桜咲タイム)
- ④講演会・意見交換・指導助言

6 まとめ

全教科においてアクティブ・ラーニングの手法を活かした授業を行うことで、主体的に学び、深く考え、伝えることができる生徒の育成につながると考え実践を重ねてきた。

今回の研究会では、桜ヶ丘版アクティブ・ラーニングの「授業の型」を提示した。アドバイザーである小林先生にご指導頂いたことを基に、1時間の授業で「態度目標」「内容目標」を明確にし、教科内容的な資質・能力とともに、「学びに向かう力」や「人間性等」の育成を達成する授業づくりについて研鑽を深めてきた。限られた教科だけでなく、全教科で取り組んできたことを踏まえ、9教科10領域の公開授業を行った。全教科の取り組みにより相乗効果が生まれ、深い学びの習得が期待できる授業スタイルである。これは小林先生の理論に、短時間グループアプローチの実践家である名城大学曾山和彦教授の理論を取り入れたことが大きい。

授業公開の中で、生徒は互いに関わり合いながら活発に意見交換をしたり、課題探究を行った。「伝える」ということはできているが、「傾聴する」ことにまだ課題がある。これは生徒同士の関わり合いの中だけで育むのではなく、教師の関わり方により大きく変わるものであるという指摘を受けた。生徒の活動中に教師が全体に対して助言や指示を出してしまう場面が少なからずあった。活動に入る前に指示を徹底しておくことや、次の指示を出す際も、一度活動を中断させて聴く姿勢になることを大切にし、授業に臨みたい。

今回の自主公開授業研究会は経過であり、桜ヶ丘版アクティブ・ラーニングの授業の型が各教科に入った段階である。今後、新学習指導要領が示す授業の在り方を考え、単元構想や課題を工夫し、知識を習得・活用し、課題を探究することで深い学びに結びつけたい。

7 桜ヶ丘版アクティブ・ラーニングについて

① 「対話的な学習」ができるインフラの整備

短時間グループ・アプローチ（SST）の手法を「桜咲タイム」として、教育課程に位置付け毎週水曜日の5限終了後に10分間の活動を全校一斉に行う。

② 協働的な学習として実施

「主体的・対話的で深い学び」を行うためには、授業を個のみの学習にしないで、他者との協働的な営みやかかわりを促すことで、主体的で対話的な学習となり、学びそのものが深まり、刻々と思考がアップデートされたことになると考える。

③ 学習指導要領を踏まえた「本時目標」の設定

学習指導要領解説書に示されている「目標」「内容」「内容の取扱い」を事前に確認し、単元構想及び学習指導案づくりを行う。

④ 「内容目標」と「態度目標」の設定

教科の知識・技能等、「できる」「わかる」「活用する」力を内容目標として設定するだけでなく、「学びに向かう力」や「人間性等」を育成することを考えて学び方（学習活動）を工夫する。その学び方の観点を「態度目標」として設定する。

⑤ 授業の流れを提示

学習の見通しを持ち、何をどのような方法で解決していけばよいのかがわかるように提示する。生徒の主体的な態度を引き出すためには、必要な条件である。

⑥ 「態度目標」の追跡

1時間の授業の中で、「内容目標」を達成するための学習活動は、「態度目標」を達成するための活動でもあるため、指導者は「内容目標」に関する直接指導ではなく、協働的な学習を促すための学び方である「態度目標」について、観点を明確にして生徒一人ひとり、あるいは学習集団に働きかける。

⑦ 「内容目標」の確認

内容目標の達成がなされているか、主となる学習活動で見取れる場を設定するなど内容目標の達成状況を確認できる場面を設ける。

⑧ 振り返りの実施と共有

授業の終末に必ず振り返りを行う。この振り返りは、「態度目標」の観点で振り返りが行われるように留意し、書かせたり、発表させたりすることにより共有化を図ることとする。また、できるだけ共有化する場面では、「態度目標」に照らして適切に振り返りを行っている生徒の意見や感想を意図的に取り上げることにより、よりよい「学び方」が身に付くように留意する。アクティブラーニングがねらう育成したい力は、「学びに向かう力」や「人間性」の育成である。したがって、この力を育成するためには、「態度目標」の達成が重要である。「振り返り」活動は、活動中、終末に行うことで、自分の変容や学び方についてメタ認知を促したい。